

Eureka V

六年制通信 No.36 平成30年3月10日(土)号

四大綱

私立の学校にはそれぞれ建学の精神があって、創始者の教育に対する姿勢がそこに表れています。私立の大学では、創始者が学歌の作詞をされている場合もあって、そこにも教育に対する熱い思いが表現されていることがあります。私は昔よく大学の学歌とか寮歌などを読んでいたことがあったのですが、非常に詩的なものや若者に対するメッセージに溢れたものがありましたね。これなんか、読んでみると、よし頑張ろうと思いませんか。どこの学歌かは言いませんけど。

はがね からだ きた 鋼鉄なす身体を練え ぐがね こころ 黄金なす精神を磨き

あらたま きわ 新珠の真理を窮め 剛健の意気高らかに

あまがけ のぞみ 天翔る希望抱きて 五大州七つの洋に雄飛し行かむ

さて、三重中高の建学の精神は、皆さんご存知の通り「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」ですよ。また、ジェントルマンシップ・レディシップはスポーツマンシップに通じるとの考えから、四大綱を教育の内容として掲げています。「ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ」は、皆さんには是非とも体得して卒業してほしいと考えています。

「ルールを守る」ことはなぜ必要か。何かが必要かどうかを考えるときは、それがなければどうなるかと考えるとよくわかるとされています。社会には守らなければならないルールがたくさんあります。そのルールを守らなければどうなるか。交通ルール一つ取り上げてもわかりますが、おそらく多くの人が死にます。君たちの身近なところでは、どんな競技の試合も成り立たなくなるでしょう。つまり私たちが「ルールを守る」ことをおろそかにすれば、社会生活ができなくなります。だから、どんな細かいルールであっても、まず守ることができなくてはなりません。私たちは別にルールを守るために生きているわけではありません。しかし社会の中で自分以外の他者と共存していくためには、ルールを守る人間になる必要があるということです。

「ベストを尽くす」ことは大切です。以前イチローの「準備とは言い訳の材料になりうるものを排除していくことだ」という言葉を紹介しましたが、彼はベストを尽くしたいからこういう言葉が出るのです。常に自分の最高到達点を求めていく姿勢が私たちに感動を与えるのでしょうか。皆さんはほとんどの人がプロの選手になるわけでは

ないでしょうが、どのような職に就いたとしても、日々自分のベストを尽くす努力をするべきです。これは個人で仕事をしている場合だけでなく、何か共通の目的を持ったチームで仕事をするときも同じです。誰もがベストを尽くさなくなったらチームはおしまいですからね。

「チームワークをつくる」ことは、現代人の方が苦手かもしれませんね。人と人の軋轢あつれきに弱くなりましたから。でも集団の中に入らないと、自分にリーダーシップがあるのか、あるいはフォロワーシップに長けているのかわかりませんから、幅広く人と接してチームに貢献できる場所を自分で見つけるようにしなさい。論語にも「君子は周すれども比せず、小人は比すれども周せず」とあります。「周」は広く公平につき合うことで、「比」は私的な利害関係者とだけ親しむことを言います。君たちには君子の道を歩いてほしいと思います。

「相手に敬意を持つ」ことが最も難しいですね。心では思っている、行動で表さないと相手には通じませんから。最近、藤井聡太六段の大活躍や羽生善治永世七冠の国民栄誉賞受賞で、空前の将棋ブームですが、まだ中学生の藤井六段の立居振舞を見ていると、彼は常に「相手に敬意を持つ」姿勢を持っています。勝負がついたあとの礼も、インタビューに応じる姿も、その内容も、無礼な要素は微塵もありません。周囲への気遣いも大人顔負けです。つい最近朝日杯で優勝した時、自分の持参した飲料のラベルを取らなくていいですかと、主催者側に尋ねたそうです。テレビ放映されますから、要するにスポンサー側に不都合はないかと気にしたのですね。中学生のできることはありません。将棋の内容もすごかったのですが、私はこのエピソードに深く心を打たれました。競技性が違うから何とも言えないのですが、一球ごとに雄叫びをあげ、勝ったら礼より先に自分のコーチに駆け寄っていく、そんなスポーツのシーンをテレビで観ると、私は藤井六段の静かな美しさに一層魅力を感じます。そして「相手に敬意を持つ」とはどのように実践されるべきなのか、それをどのように生徒に教えるべきなのかと考え込んでしまいます。皆さんも考えてみて下さい。

今週のおすすめ

・葉丸岳 『刑事の怒り』 (講談社)

江戸川乱歩賞受賞作『天使のナイフ』以来、私はこの人の作品を愛読しています。『刑事の怒り』は夏目信人シリーズの最新作で連作短編集ですが、第1作の『刑事のまなざし』から読んでみる方がいいかもしれません。『その鏡は嘘をつく』『刑事の約束』と続きますから、順番にどうぞ。夏目さんのシリーズは椎名桔平主演でテレビドラマ化されましたから、観た人もいるでしょう。がっかりするかもしれないと思いながら私も観ましたが、夏目さんの優しさと厳しさがよく表現されており、原作の雰囲気うまく伝えていたと思います。でも、いつも思うことですが、やっぱり原作をしのぐ映像はなかなかないものですね。

BGMは佐野元春の *Someday* でした…。